

## 令和 3 年度 第 5 回 新潟支部評議会 議事概要

開催日時	令和 4 年 3 月 22 日 (火) 13 : 30 ~
会場	全国健康保険協会新潟支部 会議室
出席評議員	青柳評議員、秋葉評議員、内山評議員、大橋評議員、高野評議員、竹津評議員、筒井評議員、宮本評議員〔五十音順〕
議題	<p>1. 令和 4 年度新潟支部保険料率について</p> <p>(報告)</p> <p>1. 新潟支部医療費等データ分析について</p> <p>2. 協会けんぽ加入者の二次医療圏別患者疾病分類別流出流入状況について</p> <p>3. 健康経営優良法人 2022 について</p>
議事概要	<p>事務局より各議題について説明を行った後、各評議員よりご意見をいただいた。</p> <p><b>議題 1. 令和 4 年度保険料率について</b></p> <p><b>【事務局】</b> 令和 4 年度都道府県単位保険料率について、新潟支部の状況と比較しながら、全国的な意見や傾向を説明する。</p> <p>また、平均保険料率と準備金等を議題として先般開催された関東甲信越ブロック評議会にご参加いただいた議長より意見を賜る。</p> <p><b>【学識経験者(議長)】</b> 初めに、ブロック評議会における議論状況であるが、10%の平均保険料率と準備金残高、準備金残高の還元策の 3 つの議題について意見交換をした。</p> <p>まず平均保険料率についてだが、参加した 10 支部はいずれも保険料率が低い支部のため、特段異論は出なかった。しかし、均衡保険料率が 9.54%であるうえで 10%になっているということは将来分まで負担させられていることになるのではないかとの意見があった。</p> <p>次に準備金残高については、中長期的に見ていく必要があるとの方針だが、中長期としている 5 年の内に大きな変化はあるのかとの意見があった。また、準備金が増えすぎると公助を削らなくてはならないのではないかと懸念の声もあった。</p> <p>最後に準備金の還元策については、健康経営や健診内容の充実、口腔検査等に充てた</p>

らどうかとの意見があった。また健康宣言事業所に測定機器を設置できないかとの意見もあった。自身の意見としては、準備金はストック分と毎年積み重なってくる分は分けて考えたほうが良いのではないかと思う。ストック分は将来のために充て、毎年積み重なる分は有効に使うことを考えても良いと思う。

【事務局(支部長)】 準備金の還元策として、多くの支部から特定健診補助額の引き上げに充てたらどうかとの意見があり、本部からは今後の方針を検討したいとの回答があったことを補足する。

【事業主代表】 新潟県は令和4年度も全国一低い保険料率となっているため、今後もこのような結果を維持していければいいと思う。しかし、年齢調整や、所得調整による影響、医療提供体制が不足していることによる医療給付費の低さなども影響して、このような結果となっているため、今後も県としての課題があるように思われる。

また準備金残高が積みあがっているだけの状況はあまり良くないため、有効に使えるようにすると良い。

【被保険者代表】 準備金の還元策について、口腔検査等に充てるという他支部からの意見があったが賛成である。また、病気の予防という対策の面から、人間ドックの補助等の充実に充てることも良いのではないか。

【被保険者代表】 準備金を新潟県の医療提供体制の強化に充てることはできないのか。

【事務局】 準備金は協会けんぽ財政収支が赤字になった場合の当期末処理損失の損失てん補のみ使用することができるため、医療提供体制の強化に準備金を充てることはできない。

【学識経験者】 政府管掌保険だったときは、保険料の一部を社会保険病院の体制強化に充てることができた。しかし、各方面より保険料の流用であると厳しく追及されたため、協会内の財政運営にのみ使用することを法律で定めたという経緯がある旨を補足いたしたい。

【被保険者代表】 新潟県民としては保険料率が低いのは嬉しいが、地域によって医療提供体制に差があること等を全国で共有していただき、単純に新潟県の保険料率の低さが強調されないように会議等でご発言いただきたい。

また、西側の県では医療提供体制が充実していることで保険料率が高くなっていることもあるため、一概に保険料率を一律にすればいいという問題ではないように思う。

【事務局】 保険料率の支部間格差ができる要因のひとつに、医療提供体制に基づく医療費水準の課題がある。その課題に対する各支部の取り組みが、加入者に行動変容を及ぼしているのか疑問であるとの意見もある。今後支部間の医療費の格差について調査分析し議論を深めていく方針である。

また本部主催のある会議では、保険料率が一番低い新潟支部としては、保険料率や医療費が低いことは県民や医療関係者の努力に基づくものであるため、全国一律の保険料率の設定には賛同できない旨意見を述べた。評議員の皆様よりいただいた意見を基に本部会議等での発言につながるため、今後ともご指導いただきたい。

【学識経験者】 政府管掌保険から協会けんぽになったことで、医療供給と健康保険を都道府県単位で管理するようになった。都道府県ごとに保険料率や医療費に格差がある状況だが、各都道府県と保険者が協力して取り組むことで議論が前に進んでいくと考える。

#### **報告事項 1 新潟支部医療費等データ分析について**

#### **報告事項 2 協会けんぽ加入者の二次医療圏別患者疾病分類別流出流入状況について**

【事務局】 全国と比較した新潟県の健康リスクの傾向や、新潟県の地域別の健康課題、二次医療圏別の患者流入流出状況について分析データを用いながら説明する。

【学識経験者】 二次医療圏の患者の流出流入状況についてのお話があったが、医療の現場から見ても県央地域から流入が多いことを実感する。

また、全国の医療費の傾向についてのお話もあったが、この傾向についても納得である。病床数も医師数も西高東低の傾向があるため、医療提供体制が弱い新潟県のような地域の医療費が低いのは仕方のない結果である。しかし、健康リスクのデータを見ても全国と比較しても良い結果が出ているため、医療提供体制に頼ることができないがゆえに自身で健康管理する習慣があるような印象を感じた。

【被保険者代表】 患者の流出流入状況については、各地域で整備をしているところであるため、この移行期をそれぞれの地域でどう支えていくかが重要である。そのため、今後も今回のような分析を参考といたしたい。

また、新潟県地域医療構想について、エリアによっては病床数が不足している病院がある等抱えている問題が様々なため、県内で新しい情報を共有していくことが大切だと思う。

### 報告事項 3 健康経営優良法人 2022 について

【被保険者代表】 健康経営に対して、県との関わりを深めていった方が良いと思う。

また、経営者側から働きかけるものであるが、従業員からも自身の問題として意識づけしていくことが重要だと感じた。

【事務局】 新潟県としては、県独自の認定制度を設けており、表彰制度も充実している。また、新潟支部の健康宣言をエントリーしてから各制度に申し込みをするような流れをとって連携している。

大きな取り組みとしては、新潟県は各関係団体と連携しヘルスプロモーションプロジェクトを実施しており、その中のひとつに健康経営が位置づけされている。このように新潟県としては様々な面から健康経営の広がりにご協力いただいている状況である。

#### 全体を通しての質疑

【事業主代表】 先日、協会けんぽの特定保健指導があり、健康づくりには予防的な習慣が一番大切で、昼食だけでもバランスの良い食事をとるだけでも健康状態が良くなるとの話を伺った。

また、正しい運動法を知らなかったり、トレーナーをつけなかったりすることで起きるスポーツ障害が問題になっている。このような問題に対しての体制は整っているか。

【学識経験者】 新潟県内には、健康に運動をすること、運動によつての健康について総合的に取り組む学部がある大学もあるため、今後に期待していただければと思う。

【事務局】 先日、協会けんぽの保健師は健康づくりのための運動について学び、保健指導に生かしている。また、県は運動促進のための検討会を実施しているため、そこで出た取り組み等を加入者に共有していきたい。

また、協会けんぽ加入者の年齢層も上がってきたため、身体の運動機能の低下についても中長期的に考えていきたい。

#### 特記事項

- ・青柳評議員、内山評議員、高野評議員はオンラインでの参加。
- ・高橋評議員は所用のため欠席。
- ・次回評議会は、令和4年7月開催予定。